

学校いじめ防止プログラム

いじめの未然防止や早期発見のために、年度当初に組織体制を整えると同時に、年間の計画を立てて、学校全体で組織的・計画的にいじめの問題に取り組む。

		項 目	時 期
いじめ防止のための措置	生徒が主体となった活動	○あいさつ運動の実施	通年
		○学級活動での話し合い活動の実施	通年
		○全校専門委員会、学級専門委員会の実施	毎月1回
		○キャプテン会、部活動生集会の実施	通年
		○ボランティア活動の推進	通年
		○人権集会の実施	2学期期末テスト最終日
		○人権学習週間（人権に関わる授業）	年2回
	教職員が主体となった活動	○一人一人の実態に応じたわかる授業の展開	通年
		○職員相互の授業研究会の実施	年1回
		○教育相談週間の設定	6月、11月、2月
		○生活アンケートの実施	毎月1回
		○道徳教育の充実	通年
		○情報モラル学習の実施	通年
		○外部講師による講演会の実施	年1回
		○PTA総会での学校の方針説明	4月
		○人権通信を活用したいじめの防止活動	学期1回
		○学校参観週間の実施	11月上旬（1週間）
		○家庭教育学級での研修会の開催	年1回程度
		○関係機関や他校との情報交換の場の設定	通年
		○町教育振興研究会育成研究部会の実施	長期休業日前
○門川町民政児童委員協議会への参加	月1回		
○日向・門川地区生徒指導連絡協議会への参加	年4回		
見の措置 いじめの早い いじめの早期 発見	○生徒の発する具体的なサインの作成と共有 ※別紙2、3参照	通年	
	○Q-U検査の実施	年2回	
	○教育相談週間の設定	6月、11月、2月	
	○スクールカウンセラーの活用	毎月2回	
	○生活アンケートの実施	毎月1回	
	○職員会議での情報の共有	通年	
	○進級時の情報の確実な引き継ぎ	通年	
○過去のいじめ事例の蓄積	通年		

※ 計画を作成するに当たっては、教職員の研修や生徒への指導、地域や保護者との連携などに留意し、総合的にいじめ対策を推進していく。

1 いじめられた生徒のサイン

いじめられた生徒は自分から言い出せないことが多い。複数の教職員が、複数の場面で生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことを大切にする。

場 面	サイン
登校時 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席が増える。その理由を明確に言わない。 ・教職員と視線が合わず、うつむいている。 ・体調不良を訴える。 ・提出物を忘れて、期限に遅れたりする。 ・担任が教室に入室後、遅れて入室してくる。
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室・トイレに行くようになる。 ・教材等の忘れ物が目立つ。 ・机周りが散乱している。 ・決められた座席と異なる席に着いている。 ・教科書・ノートに汚れがある。 ・教職員や生徒の発言などに対して、突然個人名が出される。
給食時間 休み時間 清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ・給食にいたずらをされる。 ・給食を教室の自分の席で食べない。 ・用のない場所にいることが多い。 ・ふざけ合っているが表情がさえない。 ・衣服の汚れ等がある。 ・一人で清掃している。
放課後等	<ul style="list-style-type: none"> ・慌てて下校する。または、用もないのに学校に残っている。 ・持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。 ・一人で部活動の準備、片付けをしている。

2 いじめた生徒のサイン

いじめた生徒がいることに気が付いたら、積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

サイン
<ul style="list-style-type: none"> ・教室等、仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。 ・ある生徒にだけ、周囲が異常に気を遣っている。 ・教職員が近づくと、不自然に分散したりする。 ・自己中心的な行動が目立ち、集団の中心的な存在の生徒がいる。

1 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教職員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

サイン
<ul style="list-style-type: none"> ・嫌なあだ名が聞こえる。 ・席替えなどで近くの席になることを嫌がる。 ・何か起こると特定の生徒の名前が出る。 ・ある生徒の言動に、周囲が目配せやざわつく様子がある。 ・筆記用具等の貸し借りが多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・壁等にいたずら、落書きがある。 ・机や椅子、教材等が乱雑になっている。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

サイン
<ul style="list-style-type: none"> ・学校や友人のことを話さなくなる。 ・友人やクラスの不平・不満を口にすることが多くなる。 ・朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。 ・電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。 ・受信したメールをこそこそ見たり、電話におびえたりする。 ・不審な電話やメールがある。 ・遊ぶ友達が急に変わる。 ・部屋に閉じこもったり、家から出なかったりする。 ・行き先を言わずに外出したり、帰宅時間が遅くなったりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・理由のはっきりしない衣服の汚れがある。 ・理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。 ・登校時刻になると体調不良を訴える。 ・食欲不振・不眠を訴える。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間が減る。 ・成績が下がる。
<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。 ・家庭の品物、金銭がなくなる。 ・大きな額の金銭を欲しがる。

